

論文発行に関するご案内

(一社) 実践教育訓練学会 論文委員会
2022年05月13日改訂

1. 論文の基準

1.1 論文として扱う内容の範囲

- (1) 実践教育訓練技法に関する内容
 - ① 教育訓練技法の改善・開発に関すること
 - ② 効果的な OJT 技法の開発に関すること
 - ③ 「ラーニングスピード」、「オン・デマンド教育」など、新しい訓練ニーズに関すること等
- (2) 実践教育訓練に使用する教材、教具等の開発に関する内容
 - ① 新しいコンセプトとしての教材に関すること
 - ② 新しい測定器などを含めた教具の開発と製作に関すること等
- (3) 実践教育訓練の方法論に関する内容
 - ① 「学習意欲」を高揚させる方法論に関すること
 - ② 技能習得や向上のための方法論（技能の技術化）に関すること等
- (4) 4部会それぞれの専門分野における工学的、技術的基礎とその応用に関する内容
 - ① 卒業研究・卒業制作に関すること
 - ② 企業との共同研究に関すること等
- (5) 職業教育等に関する内容
 - ① 学校における職業教育及び就職指導に関すること
 - ② インターンシップに関すること
 - ③ 小中校生などに向けた理科・技術教育に関すること
 - ④ キャリア教育に関すること

1.2 論文の具備すべき要件

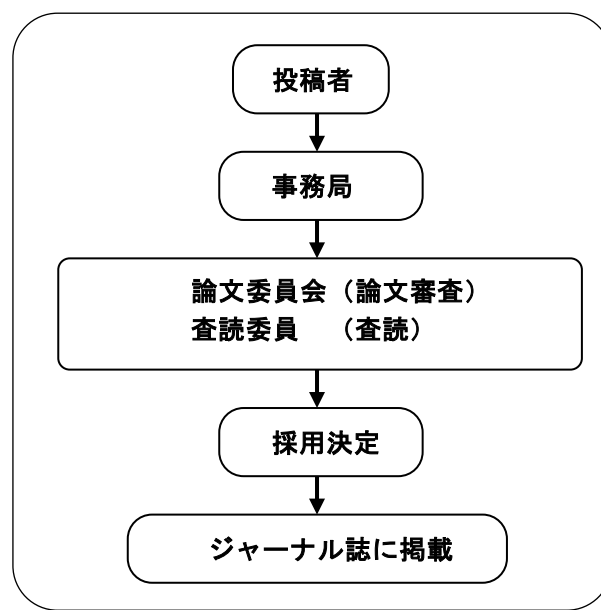
- (1) 有用性・発展性
- (2) オリジナリティ（新規性）
- (3) 完結性
- (4) 信頼性

1.3 論文審査基準

- (1) 論文の筆頭者は、会員であること。連名者は、非会員でもよい。
- (2) 論文として扱う内容の範囲に合致していること。
- (3) 投稿規定、執筆要項に掲げる要件を満たしていること。
- (4) 論文の具備すべき要件をみたしていること。

1.4 論文原稿の流れ

論文の投稿以降の流れを、以下に示す。



2. 投稿規定

- (1) 論文ならびにこれらに対する紙上討論の投稿は会員に限る。
- (2) 論文は、刷り上り黒白4頁～10頁を原則とする。
- (3) 掲載された論文に対する会員からの討論は、紙上討論としてこれに対する著者の回答と共に掲載する。
受付は論文掲載後5ヶ月以内とし、匿名は認めない。質問及び回答はそれぞれ会誌1ページ以内とする。ただし、採否は論文委員会が決定する。
- (4) 投稿希望者は、「論文申込書」に必要事項を記入のうえ、協会に申し込むこと。
- (5) 論文原稿はA4のPDFファイルに論文掲載時の体裁でまとめ、Eメールまたはメモリで提出すること。
- (6) 原稿は随時受け付け、原稿受理日は原稿が本会に到着した日とする。
- (7) 原稿送付先
メールアドレス：jissen.ronbun@gmail.com

住所 : 〒112-0012
 東京都文京区大塚 5-3-13 ユニゾ小石
 川アーバンビル 4F 学会支援機構内
 一般社団法人
 実践教育訓練学会 論文係

- (8) 原稿の採否は、査読の結果により論文委員会
 が決定する。論文委員会は著者に内容の訂正
 または短縮を求めることがある。
- (9) 著者が内容の訂正または短縮を求められて 2
 ヶ月以内に提出しないときには、原稿の受付
 日は無効とする。
- (10) 掲載が決定した後、A4 用紙に作成した正原
 稿を著者校によりをもって投稿の前手続きを
 終了する。
- (11) 掲載論文の著作権は原則として協会に帰属す
 る。ただし、著者がその一部を引用すること
 を妨げない。
- (12) 掲載された論文の記事の内容についての責任
 は、すべて著者が負うものとする。
- (13) 掲載否となった論文の返却理由に対して、著
 者は意見を添えて原稿を再提出することがで
 きる。ただし、同一論文に対しての反論は、
 原則として 1 回限りとする。
- (14) 著者は当該論文の掲載後、請求に応じて表
 1 に定める掲載料を納付する。

頁数	掲載料	超過頁掲載料
4 - 6 頁	20,000 円	10,000 円/頁

- (15) 論文の投稿には、以下の 3 つのケースがある。
 - ① 一般投稿
 - ② 実践ジャーナル掲載の中から、「論文候補」と
 して推薦。
 - ③ 研究発表会で発表されたものの中から、「論文
 候補」として推薦。

3. 執筆要項

3.1 原稿の作り方

- (1) 原稿には A4 用紙を用いる。
- (2) 原稿論文は、表題・著者名・本文・参考文献・
 付録を含め、刷り上がり 6 ページを標準とす
 る。
- (3) 原稿第 1 ページには、まず、表題・著者名を
 記入（和文と英文）し、次に日本語の要約を
 記入する。
 標題に副題がある場合の英文は、副題の下
 の行に付ける。
- (4) 本文は、2 段組にする。
- (5) 各段の 1 行は 25 文字、2 ページ以降の 1 段は
 50 行を標準とする。

- (6) 第 1 ページには、左コラム下に脚注をもうけ
 る。
- (7) 図、表、写真は、本文中に割り付けて貼る。
 正原稿には鮮明な図、表、写真を貼る。

3.2 文章表記上の注意

- (1) 原稿は、簡潔な表現により横書きを口語体と
 し、常用漢字および新かなづかいのひらがな
 を用いる。ただし外国語はカタカナまたは言
 語のままとする。
- (2) 文部省、JIS などでは定められた学術用語、記
 号、定義などがあるときはこれに従う。
- (3) 単位は、原則として国際単位系 (SI) を用い
 る。(JISZ8203 参照)。ただし、当分の間、
 SI 以外の単位とそれに基づく間山地を { }
 で書き添えてもよい。
- (4) 数字記号、量記号および変数の記号はイタリ
 ック体とし、なるべく JIS (Z8201、Z8202
 参照) などで定められたものを使用し、記号
 表としてまとめて表記することが望ましい。
- (5) 見出しは、1.、2.、……のように番号を
 つけ、行の左揃えに書く。小見出しは、1.1、
 1.2、……として左に書く。

3.3 数式・記号の字体指定上の注意

- (1) 量記号はイタリック体、単位記号はローマン
 体を指定する。また、大文字・小文字等が明
 確に区別できるように指定する。
- (2) 文章から独立した数式は、ローマン体のみ指
 定する。(指定のない部分はイタリックで組ま
 れる)。文章と同じ行中の数式についてはすべ
 ての文字についてローマン、イタリック等の
 指定をする。字体指定の方法は印刷校正記号
 JISZ8208-1965 にならうこと。
- (3) log、ln、sin、cos、tan、lim、e (exp) など
 の数学記号は、ローマンの指定をする。
- (4) 単位、元素記号、虚数単位はローマンの指定
 をする。
- (5) ベクトル、テンソル、行列はポールドイタリ
 ックを指定する。
- (6) ギリシャ文字を手書きするときには「ギ」と指
 定する。

3.4 図表作成上の注意

- (1) 図や表にはそれぞれ図 1 (Fig. 1)、表 1 (Table
 1) のように番号をつけて説明を書く。本文
 中で図、表に言及するときには、図 1、図 2、
 ……、表 1、表 2、……とする。
- (2) 図の大きさは、会誌掲載時と同縮尺とする。
 不適当なものは著者に再提出を依頼する。
- (3) 図中の文字、記号の大きさ、線の太などは縮

尺に合わせて書く。文字の縮尺後の大きさは高さ2 mmを標準とする。

3.5 その他

(1) 参考・引用文献は、関係箇所の上肩に番号(1)のように記入し、本文の末尾に次のような形式で記載する。

① 論文の場合

著者：論文題目, 誌名, 巻一, 始ページ/終ページ (発表年)

② 単行本の場合

著者：書名, ページ, 発行所名 (発行)

(2) 脚注は、本文の下に横線を引いてその下に記入する。記号はページごとに*、**のようにする。

(3) 誌上討論は、箇条書きでよい。必要ならば詳細な説明を添付してもよい。説明は掲載しない。討論は再質問、再回答にて終結する。

(4) 別刷り料金(税込み)は、以下の通りである。

50部：	4～6頁	20,000円
	7～8頁	30,000円
	9～10頁	40,000円
100部：	4～6頁	30,000円
	7～8頁	40,000円
	9～10頁	50,000円